韓国語母語話者における言いさし表現の意識調査
ー述部まで述べた言い切り表現との比較を通してー

曺　英南

要　旨

本稿は韓国語母語話者が言いさし表現について対人関係と談話機能別にどのようなとらえ方をしているのかを、明らかにすることが目的である。調査は述部まで述べた言い切り表現との比較を通してアンケート調査を行った。結果は次のとおりである。(1) 言いさし表現は遠慮が必要な関係より遠慮が必要ではない関係でより多く使用される傾向がある。(2) 使用場面をみると、意志表示をするときと遠慮が必要ではない関係において情報提供をするときに多く使用される傾向がある。使用する理由としては「冗長さ回避のため」が多い。(3)不使用場面をみると、相手に要求をするときと遠慮が必要な関係において情報提供をするときである。使用しない理由としては遠慮が必要な関係においては「丁寧さに欠ける」、遠慮が必要ではない関係においては「正確な意思伝達に欠ける」という理由をあげている。

【キーワード】韓国語、言いさし、言い切り、対人関係、談話機能

1. はじめに

近年、日本語教育では日本語の言いさし表現すなわち述部が省略された発話が日本語学習者にとって習得が難しいと言われており、教授法の重要性が主張されはじめている（山本 1989:89、生駒・志村 1993:47、柏崎 1993:62）。現代日本語論では述部が省略されている言いさし表現を日本人特有のものであるとしているが、渡辺（1981）は韓国語にもこのような言い方があると反論をしている（pp.96-105）。しかし、韓国語の言いさし表現については日本語との関連でその一部に言及したにとどまっており、その具体的な使用状況及び使用意識が明らかにされているとは言えない。

そこで本稿ではいわゆる述部まで述べた言い切り表現との比較を通して、韓国語の言いさし表現の使用状況と使用意識を明らかにしたい。韓国語の言いさし表現の研究は韓国人学習者の日本語教育において母語との対照を通してより効率よく指導するた

めの基礎研究の一環である。

2. 先行研究及び本稿の位置付け

2.1 先行研究

韓国語の言いさし表現の使用状況及びとらえ方について言及しているものには次の研究がある。渡辺（1981）は、韓国語にも日本語の言いさし表現と同様の現象が見られるが、異質な言語観をもっているとしている。すなわち「目上の人に対する言語表現は別として一般の人に対するもののいい方は、日本人にくらべるとはるかにずばりと遠慮のない言い方を用いるし、ものごとをはっきりいうのを良しとする。あいまいないい方よりは、白か黒かをはっきりさせたいい方が好まれる」としている。また元（2000）では断りの場面における日韓の「言いさし文」について質問紙調査により語用論的分析をしている。結果は日本語も韓国語も全体文に対する「言いさし文」の比率は20-30%ぐらいで差は見られないが、場面によってはその使用頻度の差が少し見られるとしている。さらに断り場面において日本語と韓国語の言いさし表現 (1)の丁寧度を多岐選択式で調べている。結果は日本語の言いさし表現は丁寧度が高い表現であり、韓国語の言いさし表現は丁寧度が非常に低い表現であるとしている。

言いさし表現に対する丁寧度の意識についての研究はいくつか見られるが、主に日本語についてのものが多い。生駒・志村（1993）は日本語話者は相手の地位が上の場合、顕著に言いさし表現を使うとしている。岡田（1991）は「日本人は文の最後まで聞かなくても、互いに相手の意図を察しあう習慣」があるとしており、「文末まで全部言わないことは、単に言わなくても分かるというだけではなく、待遇上の積極的な意味をもっている。」(pp.11-12）という。また水谷(1989)は英語話者と日本語話者の言いさし文に対する意識が違うとし、英語話者の意識では丁寧な話し方は完全文であり、一定の長さを持つ文が好ましいという考え方をもっているという。

2.2 本稿の位置付け

2.1で見たように、先行研究では言いさし表現を丁寧度の観点からとらえているものが多い。特に日本語の言いさし表現は丁寧度が高い表現とされており、目上の人との対人関係において顕著に使われるとしている。それに対して断り場面における韓国語の言いさし表現は丁寧度が低い表現であるとされる。こうした先行研究をふまえて、言いさし表現が丁寧度と密接にかかわっていると想定し、丁寧に振る舞わなければな

らない対人関係と丁寧に振る舞わなくてもいい対人関係において、実際どのように言いさし表現が使用されるか、またどのような意識で使ったか、明らかにしたい。また水谷（1993）はイギリスの家庭場面を取り上げ、うちとけた、ごく短いやりとりが普通であるのに、お茶をいれてほしいとか、食卓の塩を回してくれとか家族に頼む時は話し方の調子が一変した例を上げている。このように対人関係と同時にどのような機能で話すかによって、言語表現は使い分けられていると思われる。

そこで本稿では断り場面に限定せず、対人関係と談話機能による言いさし表現の使用状況と不使用状況を調べ、どのような意識で使用し、使用しないかを明らかにしたい。

3. 研究方法

3.1 研究の枠組み

3.1.1 言いさし表現の定義とパターン

言いさし表現は形式上、述部が省略されていると見られる発話であり、それで発話が完結したものの総称である。言いさし表現には次のように二つのパターンがある。

(1)「述部復元」言いさし：話の前後関係または状況から省略されていると見られる述部を補って考えなければ、発話内容が分からない言いさし。

例 1)　B に飲み物を勧める場面である。

A：<u>これ、どうぞ</u>。

B：あ、ありがとうございます。　　　　（日本映画「ラブレター」[(2)]）

「これ、どうぞ」という発話は、「飲んで下さい」という述部が省略されていると見られる。B は省略された述部まで補って考えなければ、A の意図した発話内容が伝わらないと思われる。このような発話は述部を補って考えなければ発話内容が分からない言いさしである。

(2)「非述部復元」言いさし：話の前後関係または状況から述部を補って考えなくてもそれだけで発話内容が分かる言いさし。

例 2)A から質問を受け、それに答えている場面である。

A：なぜ、音楽が好きですか？

B：<u>説明しにくいんですけど</u>。　　　　（韓国映画「接続」[(3)]）

A からの質問に対し、話者は「説明しにくいんですけど」と答えているが、話者の

発話内容は「説明しにくい」ということで、Aに実質的情報は伝わっていると考えられる。このような発話は述部を補って考えなくてもそれだけで発話内容が分かる言いさしである。

本稿では言いさし表現の二つのパターンの中で(1)の「述部復元」言いさしを対象とする。「述部復元」言いさしを対象とする理由は述部の省略がよりはっきりしているため、いわゆる「あいまいな言い方」「文末の省略」と言われている言いさしの特徴がより鮮明になるのではないかという予測のためである。

また、述部まで述べたものを「言い切り表現」と命名し、「述部復元」言いさしと比較をして、「述部復元」言いさしの特徴をさらに明らかにしたい。

3.1.2 談話機能のとらえ方

言いさしの談話機能のとらえ方として、野元（1987:154-156）の働きかけの種類を参照した。

1. 要求（聞き手に対して求めるところがある）

 1.1 情報要求（何らかの情報を与えるよう求める）

 例3) おばあさん：すみませんが、いま何時でしょうか。

 女性：11時半ですよ、だれかをお待ちのようですが。

 おばあさん：ええ、しりあいを待っているんです。　（野元1987:211）

 1.2 行為要求（何らかの行為を行うよう求める、または勧める）

 例4)寿司屋：はい、いらっしゃい。

 石井：ビールを3本。　（野元1987:206）

2. 非要求（聞き手に対して求めるところがない）

 2.1 情報提供（事実内容などを伝える、客観的事実に関する質問に対する答えを含む）

 例5)あきら：むこうまで行ってみましょうよ。

 まりこ：どこ？

 あきら：ほら、むこうにつりをしている人が見えるでしょう、あそこまで。

 まりこ：遠すぎますよ。　（野元1987:202）

 2.2 意志表示（話手の感情、意志などを表明する、それらに関する質問への答えを含む）

 例6)きよし：東京から家内の母が来ておりまして。

林：ああ、おかあさんがいらっしゃったんですか。

きよし：それで、どこかへ案内しようと思いますので。

林：ああ、そうですか。　　　　　　　　　　　　　　（野元 1987:243）

3.2 調査の概要

3.2.1 対象者

韓国の大学生 121 名を対象者とした。年齢は 19 才から 25 才までである。性別の比率は女性 74 名、男性 47 名である。出身は光州地域が大半を占めている。

3.2.2 調査方法

客の訪問場面を設定し、客に応対する一連の過程の中で、どのような言い方をするか、二つの言い方すなわち(1)「言いさし表現」と(2)「言い切り表現」の中で選んでもらう選択式談話テストを行なった。但し二つの言い方とも言わないときは、自由に記述するようにした。また選んだ理由を自由記述式で書いてもらった。

対人関係を基本として遠慮が必要な関係と遠慮が必要ではない関係の二つの場面を設定した。遠慮が必要な関係の客は父の友人とし、「です／ます」体の丁寧体 (4)で一貫している。遠慮が必要ではない関係の客は自分自身の友人とし、「だ」体の普通体で一貫している。両方とも同一の具体的な場面を提示した。3.1.2 の談話機能「行為要求／問 1」、「情報要求／問 2」、「意志表示／問 3」、「情報提供／問 4」の機能をもっている発話を設定し、遠慮が必要な関係と遠慮が必要ではない関係で 4 問ずつ計 8 問を作成した（稿末資料参照）。調査は 2001 年 12 月に行われた。

4. 結果及び考察

4.1 対人関係にみる言いさし表現と言い切り表現の頻度

対人関係による言いさし表現と言い切り表現の比率を以下の表 1 に示した。(　) の数字は選択された数である。

表 1

対人関係	遠慮が必要な関係	遠慮が必要ではない関係	計
言いさし	(134) 29.1%	(219) 48.5%	(353) 38.7%
言い切り	(327) 70.9%	(233) 51.5%	(560) 61.3%
計	(461) 100%	(452) 100%	(913) 100%

遠慮が必要な関係では言いさし表現の比率が 29.1%であり、言い切り表現の比率が

70.9%で、言い切り表現の比率が倍以上、高いことが分かる。遠慮が必要ではない関係では言いさし表現の比率が 48.5%であり、言い切り表現の比率が 51.5%で、大差は見られない。このことから遠慮が必要な関係では言いさし表現より言い切り表現が使用される傾向があることが言える。

4.2 対人関係と談話機能別にみる言いさし表現と言い切り表現の頻度

対人関係と談話機能別による言いさし表現と言い切り表現の比率を以下の表 2 に示した。( ) の数字は選択された数である。

表 2

対人関係	遠慮が必要な関係				遠慮が必要ではない関係			
機能	行為要求	情報要求	意志表示	情報提供	行為要求	情報要求	意志表示	情報提供
言いさし	(9) 7.8%	(6) 5.0%	(84) 72.4%	(35) 31.8%	(17) 15.6%	(40) 35.4%	(86) 74.8%	(76) 66.1%
言い切り	(107) 92.2%	(113) 95.0%	(32) 27.6%	(75) 68.2%	(92) 84.4%	(73) 64.6%	(29) 25.2%	(39) 33.9%
計	(116) 100%	(119) 100%	(116) 100%	(110) 100%	(109) 100%	(113) 100%	(115) 100%	(115) 100%

「行為要求」は遠慮が必要な関係と遠慮が必要ではない関係に関わらず、言い切り表現を選択する傾向があるが、遠慮が必要な関係で言いきり表現が 8%ぐらい多く選択されている。「情報要求」は遠慮が必要な関係で言い切り表現が 95%選択されているのに対して、遠慮が必要ではない関係では 64.6%選択されている。両方の関係とも言い切り表現の比率が高いと言えるが、遠慮が必要な関係で 30%ぐらい多く選択されている。「意志表示」は遠慮が必要な関係と遠慮が必要ではない関係で言いさし表現が多く選択されていて、その差もあまり見られない。「情報提供」は遠慮が必要な関係では言い切り表現が多く選択される傾向があるが、遠慮が必要ではない関係では言いさし表現が多く選択される傾向がある。このような結果に対する考察は以下の 4.3 である。

4.3 対人関係と談話機能別にみる言いさし表現と言い切り表現のとらえ方

ここでは談話機能別に対人関係を分類し、言いさし表現と言い切り表現のとらえ方について考察する。表の中の「その他」は考察対象から除外される回答である。これらは少数だったり、理由になっていないものである。

(1)行為要求

表3

対人関係	言いさし表現		言い切り表現		計
	とらえ方	頻度	とらえ方	頻度	
遠慮が必要	その他	(2) (2.1%)	丁寧 正確な意思伝達 その他	(78) (83%) (13) (13.8%) (1) (1.1%)	(94) (100%)
遠慮が不必要	冗長さ回避 その他	(9) (17.3%) (5) (9.4%)	正確な意思伝達 親密表示 その他	(24) (46.2%) (10) (19.2%) (4) (7.6%)	(52) (100%)

遠慮が必要な関係における「行為要求」で言い切り表現を選択した理由については83%が「言いさし表現より丁寧だから」という回答があり、13.8%が「正確な意思伝達のため」と回答している。言いさし表現は意思伝達が曖昧、あるいは言いかけで終わってしまったような感じがして、不完全な感じがする理由であまり好まれないということである。遠慮が必要ではない関係における「行為要求」で言い切り表現を選択した理由について46.2%が「正確な意思伝達のため」という回答があり、19.2%が「親密表示のため」という回答があった。一方、言いさし表現を選択した理由については17.3%が「冗長さ回避」という回答をした。すなわち飲み物を勧める場面で、相手も状況から言わんとすることが分かるため、あえて言う必要がないということである。

(2) 情報要求

表4

対人関係	言いさし表現		言い切り表現		計
	とらえ方	頻度	とらえ方	頻度	
遠慮が必要	その他	(2) (2.3%)	丁寧 正確な意思伝達 その他	(73) (83.9%) (10) (11.5%) (2) (2.3%)	(87) (100%)
遠慮が不必要	冗長さ回避 親密表示 その他	(11) (21.2%) (9) (17.3%) (5) (9.8%)	正確な意思伝達 その他	(20) (38.5%) (7) (13.5%)	(52) (100%)

遠慮が必要な関係における「情報要求」で言い切り表現を選択した理由については83.9%が「言いさし表現より丁寧だから」という回答があり、11.5%が「正確な意思伝達のため」と回答している。「行為要求」と同様に言いさし表現は曖昧な表現になりがちであり、話者が意図したことと違う方向でとられやすいなどという理由で言い切り表現が好まれるとしている。

遠慮が必要ではない関係における「情報要求」で言い切り表現を選択した理由について 38.5%が「正確な意思伝達のため」という回答をしている。一方、言いさし表現を選択した理由について 21.2%が述部を言わなくても意思伝達が可能、すなわち「冗長さ回避のため」という回答があり、17.3%が「親密な感じのため」という回答があった。

(3) 意志表示

表5

対人関係	言いさし表現		言い切り表現		計
	とらえ方	頻度	とらえ方	頻度	
遠慮が必要	冗長さ回避 その他	(67) (73.6%) (1) (1.1%)	丁寧 正確な意思伝達	(12) (13.2%) (11) (12.1%)	(91) (100%)
遠慮が不必要	冗長さ回避 その他	(51) (70.8%) (4) (5.6%)	その他	(4) (5.6%)	(72) (100%)

遠慮が必要な関係における「意志表示」で言いさし表現を選択した理由について 73.6%が「冗長さ回避」という回答をしている。電話のベルが鳴るという状況を相手も知っているため、あえて「電話を受けてくる」ということを言う必要がないとしている。また電話を早く受けないといけないという緊急な状況であるため、簡単に言うという理由、すなわち「冗長さ回避のため」が大半を占めている。言い切り表現を選択した理由については 13.2%が「言いさし表現より丁寧だから」という回答をしており、12.1%が「正確な意思伝達のため」という回答をしている。

遠慮が必要ではない関係における「意志表示」で言いさし表現を選択した理由について 70.8%が「冗長さ回避」という回答をしている。遠慮が必要な関係の場合と同様の理由が大半を占めている。

(4) 情報提供

表6

対人関係	言いさし表現		言い切り表現		計
	とらえ方	頻度	とらえ方	頻度	
遠慮が必要	その他	(6) (9.5%)	丁寧 その他	(51) (80.9%) (6) (9.5%)	(63) (100%)
遠慮が不必要	冗長さ回避 楽 その他	(22) (45.8%) (10)(20.8%) (3) (6.3%)	正確な意思伝達 その他	(11) (22.9%) (2) (4.2%)	(48) (100%)

遠慮が必要な関係における「情報提供」で言い切り表現を選択した理由について80.9%が「言いさし表現より丁寧だから」という回答をしている。しかし丁寧さに対する認識は父の友人に対するものと父に対するものに分類される。父の友人に対するものは61.9%を占め、父に対するものは19.0%を占めている。

遠慮が必要ではない関係における「情報提供」で言いさし表現を選択した理由については45.8%があえて言う必要がない「冗長さ回避」という回答をしている。次いでは20.8%が「楽だから」という回答をしている。一方言い切り表現を選択した理由について22.9%が「正確な意思伝達のため」という回答をしている。

5. 終わりに

韓国語の言いさし表現の使用頻度ととらえ方を対人関係と談話機能別にみると次のことが分かる。

(1) 言いさし表現は遠慮が必要な関係より遠慮が必要ではない関係でより多く使用される傾向がある。(2) 「行為要求」の機能は対人関係に関わらず、言いさし表現があまり使用されない傾向がある。(3) 「情報要求」の機能は対人関係に関わらず、言いさし表現が半分以下（遠慮が必要な関係で5%、遠慮が必要ではない関係で35.4%）の使用頻度を見せているが、遠慮が必要ではない関係において30%ぐらい多く使用される傾向がある。すなわち遠慮が必要ではない関係になると言いさし表現の使用頻度が高くなることが言える。(4) 「意志表示」の機能、話者自身の行為を表示する場合は対人関係に関わらず、言いさし表現が使用される傾向がある。(5) 「情報提供」の機能は対人関係による使い分けがはっきり見られる。すなわち遠慮が必要ではない関係において言いさし表現が66.1%の使用頻度を見せている。逆に遠慮が必要な関係において言いさし表現は31.8%の使用頻度を見せている。

次に韓国語の言いさし表現のとらえ方を使用場面と不使用場面に分類し考察した。使用場面では四つの機能にわたって、「冗長さ回避」というとらえ方が一番多かった。使用していない場面では遠慮が必要な関係においては「丁寧さに欠ける」、遠慮が必要ではない関係においては「正確な意思伝達に欠ける」という理由をあげている。

渡辺（1981）では韓国人は目上の人に対する言語表現は別として一般の人に対するもののいい方は、日本人にくらべるとはるかにずばりと遠慮のない言い方を用いるし、ものごとをはっきりいうのを良しとするとしている。本稿で実証的に調査した結果、

次のことが分かった。韓国語では目上の人に対しても「丁寧さに欠ける」という理由で言いさし表現はあまり好まれず、ものごとをはっきりいう言い切り表現が使用される傾向が見られた。友達の関係になると、「冗長さ回避」の理由で言いさし表現を使用する傾向が見られた。

本稿においての結果は言いさし表現に対して示唆する点が大きいが、全体の言いさし表現を包括するにはさらなる検討が必要だと思われる。今後の課題は日本語母語話者と韓国人日本語学習者に同様の言いさし表現の意識調査を行い、本稿で得られた結果と対照していきたい。

注

(1)日本語と韓国語の言いさし表現の調査文は次のとおりである。

「すみません、バイトが入っていますので」「ごめん、バイトが入っているので」

「죄송합니다, 아르바이트가 있어서요」「미안, 아르바이트가 있어서」

(2)岩井俊二監督の 1995 年作品

(3)チャンユンヒョン監督の 1997 年作品

(4) 韓国語では「요」で終わる発話で設定した。この文体は目上あるいは丁寧に言わなければならない相手に対して使う言葉づかいで、今日一番幅広く使われている(イイクソプ、他：p.269)。

参考文献

(1) 生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断わり」という発話行為について」『日本語教育』79 号

(2)イイクソプ、イサンオク、チェワン(1997)『韓国の言語』シング文化社

(3) 元智恩（2000）「断わりとして用いられた日韓の『言いさし文』についての語用論的分析」『日語日文学』13　大韓日語日文学会

(4) 岡田安代（1991）「日本人は、なぜ文末まで言わないのか？ー会話を成り立たせる「共話」の原理ー」『月刊日本語』4-1

(5) 柏崎秀子（1993）「話しかけ行動の談話分析ー依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』79 号

(6) 金田一春彦（1975）『日本人の言語表現』現代新書　講談社

(7) 曺英南（2000）「『けど』で終わる発話の語用論的研究－『言い終わり』の『けど』を中心に」『言語文化と日本語教育』19号　お茶の水女子大学
(8) 野元菊雄（1987）『日本語教育映画　基礎編総合文型表』国立国語研究所
(9) 水谷信子(1989)『日本語教育の内容と方法：構文の日英比較を中心に』アルク
(10)________（1993）「『共話』から『対話』へ」『日本語学』12-4　明治書院
(11) 柳父章（1993）「日韓・言語表現と人間関係の対応の比較」『総合研究所紀要』18-3　桃山学院大学総合研究所
(12) 山本富美子（1989）「待遇表現としての文体」『日本語教育』69号
(13) 渡辺吉鎔・鈴木孝夫（1981）『朝鮮語のすすめ』現代新書　講談社

談話テスト資料

場面1：父の友人があなたの家に訪ねてきました。そのとき、父は留守でした。

問1.まず、飲み物を用意し、勧めようとします。あなたはどのように言いますか？

(1) 저 이것. (あの、これ 。)

(2) 저 이것 드세요. (あの、これ お飲みください。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問2.時刻は午後1時ごろだったので、食事をしたかどうか、気になります。あなたはどのように聞きますか。

(1) 식사는요? (お食事は？)

(2) 식사는 하셨어요? (お食事はなさいましたか？)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問3.話の途中、部屋から電話の音が鳴り、電話を受けるためにその場を離れようとします。あなたはどのように言いますか。

(1) 잠깐만요. (ちょっと。)

(2) 잠깐 전화 받고 올게요. (ちょっと電話を受けてきます。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問4.電話は父からであり、すぐ戻ってくるということを父の友人にどのように伝えますか。

(1) 아버지가 곧 오신다고요.　(父がもうすぐ戻ると。)

(2) 아버지가 곧 오신다고 하셨어요. (父がもうすぐ戻ると申してました。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

場面 2：親しい友人があなたの家に訪ねてきました。もう一人来る予定だった友人であるウンヨンはまだ来ていません。

問 1. まず、飲み物を用意し、勧めようとします。あなたはどのように言いますか？

(1) 이것.　(これ。)

(2) 이것 마셔.　(これ飲んで。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問 2.時刻は午後 1 時ごろだったので、食事をしたかどうか、気になります。あなたはどのように聞きますか。

(1) 밥은?　(ご飯は？)

(2) 밥은 먹었니?　(ご飯は食べた？)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問 3.話の途中、部屋から電話の音が鳴り、電話を受けるためにその場を離れようとします。あなたはどのように言いますか。

(1) 잠깐.　(ちょっと。)

(2) 잠깐만 전화 받고 올게. (ちょっと電話を受けて来る。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

問 4.電話はもう一人来る予定だった友人ウンヨンからであり、すぐ来るということを親しい友人にどのように伝えますか。

(1) 은영이가 곧 온다고. (ウンヨンがもうすぐ来るって。)

(2) 은영이가 곧 온다고 했어. (ウンヨンがもうすぐ来るって言ってた。)

上記の項目を選んだ理由はなんですか。

(韓国：全南大学)

A Study on the "leaving unsaid" utterance of Korean native speakers
— As compared with the unsaid utterance whose predicative part is expressed —

CHO Young nam

The purpose of this research is to clarify how a Korean native speaker has a way of understanding about personal relations and several conversational functions of the "leaving unsaid" utterances. The research employed the questionnaires as compared with the unsaid utterance, whose predicative part is included. The results follow:

(1) The "leaving unsaid" utterance is likely to be used more in the unreserved relations than the reserved ones.

(2) It shows a more tendency to be used in case of showing the will of the speaker himself and giving some information in the unreserved relations. This is the major reason "to avoid speaking at length", according to this research.

(3) When it is not used, it shows a tendency to be a case of giving some correcting information in the reserved relations and need for action by the listener. According to the inquiry, the main reason is "a lack of courtesy" in the reserved relations and "a lack of correct communication" in the unreserved ones.

(Chonnam National University)